

## 抗血栓作用を持つ薬剤と手術

抗血栓作用のある薬剤は血液を固まりにくくするために、服用したまま抜歯や手術を行うと術中の出血が止まりにくくなる可能性があります。

したがって、手術の前には一定期間、服用を中止する必要があります。

抗血栓作用を持つ薬剤で、術前の休薬期間は次のようになっています。

・塩酸チクロピジン (パナルジン)	10～14日
・アスピリン (バファリン81mg, バイアスピリン)	7～10日
・イコサペント酸エチル (エバテール)	7～10日
・シロスタゾール (プレタール)	3～4日
・トラピジル (ロコルナール)	3～4日
・ベラプロストナトリウム (プロサイリン)	1～2日
・塩酸サルポグレラート (アンプラーグ)	1～2日
・リマプロストアルファデクス (プロレナール)	1日
・ジピリダモール (ペルサンチン)	休薬の必要なし
・ワルファリンカリウム (ワーファリン)	5～7日

抗血小板剤のうち、アスピリン (商品名：バファリン錠81mgほか) や塩酸チクロピジン (商品名：パナルジン) の抗血小板作用は不可逆的であるため、その効果は血小板の寿命である7～10日間持続します。したがってこれらの薬剤は手術の前には7～14日間休薬するのが一般的です。実際、添付文書にも、バファリンでは「手術前1週間以内の患者は慎重投与」、パナルジンでは「手術の場合は、10～14日前に投与を中止する」という記載があります。

一方、同じ抗血小板剤でも、シロスタゾール (商品名：プレタールほか) は血小板に対し可逆的に作用します。同剤は100mg投与後3～4時間で血小板凝集が抑制され、投与中止後48時間以内でその作用は消失します。このことから、手術前の休薬期間は3～4日前程度で十分だと考えられています。

また、抗凝固剤のワルファリンカリウム (商品名：ワーファリンほか) については、1回の服用による抗凝固効果は投与してから12～24時間後に発現し、48～72時間後まで持続するため、手術前には5～7日間休薬することが望ましいと考えられています。

ただし、これらは休薬期間の目安にすぎないので、外科的侵襲の大きさによっても必要な休止期間は変わってきます。また、服薬中止によるリスクもあることから、適切な休薬期間を医師に確認することが大事です。

(参考：NIKKEI Drug Infomation)

「アスピリンと抗血小板作用」も参考になさってください。

(鹿児島市医師会病院薬剤部 柿本 智広)